七 私の告日

- ・未来の運命は、これで定められた。
- 私の気持ち
- ウ、私に嫉妬させて、求婚を急がせる策略であった。
- イ、私ととの二人に好意を持っていた。
- ア、私のKに親切にしてくれという依頼を忠実に守っていた。
- お嬢さんのKに対する態度
- 私の財産
- 4回の条件も出さなかった。
- ・奥さんは私が談判することを予期していた。
- ・奥さんとお嬢さんの間で、私との結婚話ができていた。
- ・奥さんはお嬢さんが私を好きだと知っていた。
- 1
- ・本人が不承知のところへ、やるはずがない。
- ③本人の意向さえ確かめるに及ばない。
- ②即座に承知した。
- ①私より落ち着いている。
- 奥さんの返事
- ②突然「お嬢さんを下さい」と言う。
- お嬢さんへの告白
- ○スが近ごろ同か言わなかったかと聞く。
- 私の告白
- 20. 奥さんに談判する。
- 仮病を使う

- 奥さんにお嬢さんをくれと談判する
- スより先に、区の知らない間に、事を起こす。
- 最後の決断が必要だという声を心の耳で聞く。